

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地3		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 居室の窓から、高崎・鶴見・由布の山々が眺められる自然の多いところにあります。2 併設の診療所と大学附属病院が近くにあり、医療面も充実しております。3 隣接した法人施設の行事に参加したり、GH行事等を計画したりつつ、常に居室にこもらないような声掛けを心掛けています。4 スタッフが様々なアイデアを出し、家庭的で皆様が楽しめる施設作りに取り組んでいます。(おやつ作り、生け花、ゲームなど)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・山々が望まれる自然に囲まれた風光明媚なところに位置している。
- ・近隣の人たちとの交流が絶えないよう地域の行事に参加したり、施設のお祭りなどに招待したりして相互の連携がうまくいくように努めている。
- ・ベテランの職員が多く、落ち着いたケアが提供され利用者は静かな生活環境の中で過ごしている。
- ・母体には医院や老人保健施設があり、24時間医療面の安心が保障されている。
- ・職員は学習意欲があり、これから増えてくると予想される看取りについても研修に参加しようという意欲が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人との出会いを大切に、家庭的な生活を心掛けつつ、地域との共存を考えた施設作りを目指しています。	「地域に密着して、元気に明るく過ごす」という理念を基に利用者と散歩中 地域の人に話しかけたりして顔見知りになっている。新人研修において理念を確認し周知徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が自治会、老人会に加入し、地域との交流を出来る範囲で行っております。また、ホーム周辺を散歩している人や、農作業している地域の方と挨拶をするよう心掛けています。	地域の夏祭りやおみこしを見物に行ったりしている。事業所の夏祭りや秋祭りに地域の人を招待するなど地域との繋がりを大切にしている。利用者と散歩中地域の人と話をして顔なじみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通じて、自治区長や民生委員に働きかけをし、地域の高齢者の暮らしについて情報収集をし、その内容を検討し、可能なものは還元・実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者と家族の代表、市の担当者、地域の代表者(自治区長など)の参加により事故防止や苦情解決等についての話し合いを行っている。その意見や要望を基にホームとしてケアに活かそうとしている。	出席者に事業所の行事を案内し地域に溶け込もうと努力している。出席の家族から時代劇のビデオや音楽を提供してもらいたいと言う意見が出され、DVDの購入を検討している。包括支援センターから感染症の研修会の案内や困ったことへのアドバイスを頂いて支	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者への運営上の事や困難事例発生時に相談を行い、指導等を受けている。また、グループホームとしても市役所との連携を密にし手質の向上に取り組んでいる。	不定期に市に出掛けたり電話したりして困難事例など相談し助言を受けている。ノロウイルス感染やインフルエンザについての手紙をもらうなど、市との連携を不断に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う必要がなく、出来る限り自由に安全に安心して生活が送れるように日ごろから心掛けている。	「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに身体拘束はしないケアに心掛けている。部屋の施錠は無く自由に1階から3階まで行き来が出来る。職員会議や内部研修などで学習し身体拘束しないケアの徹底に職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、言葉の虐待も見逃してはいけない問題でもある。そのことについても研修も行っているが、常時職員が心掛け、細心の注意をしている。		

事業者名:グループホーム川崎(Ⅱ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ事例はないが、内部研修などにより認識を深め、必要な場合には、いつでも支援出来る体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から契約時まで丁寧な相談を行い、個々の立場に立って、分かりやすく説明し、疑問時には、相談員を交えて話し合いを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見・要望・不満・苦情について気軽に引き出せるように努めており、ご意見が出た場合には、会議などをして対応に努めている。	意見箱を玄関に設置している。また面会の時に意見などを聞いており、クリスマス会でもアンケートを取った。出された意見要望を支援に反映させ、過ごしやすい生活環境を目指している。利用者の服装や掃除について意見があり改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議及びカンファレンス等を開催している。その中で、運営推進会議で出た内容を報告し、もし、重要な内容があれば、話し合いを行うようにしている。	月1回のカンファレンスを兼ねた職員会議や法人全体会議で意見を聞いている。職員からは意見を言える雰囲気であり、運営がスムーズに行われている。出された意見や提案はケアの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性についての話し合いを行っている。また職員それぞれの特性を活かした役割分担をし得意分野を伸ばしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は法人での研修がすぐに実施され、段階に応じた研修を行っている。毎月1回内部・外部研修の伝達をし、職員間で共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のグループホームと情報提供などの交流をしている。その情報をもとにカンファレンス時に話し合いをし時には還元している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や訪問調査時の利用者様からの情報を得るように努力している。入居時の相談時間は、なるべく多くとり、不安内容の明確化を図れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が施設見学をし、納得のいく入居運びとなっている。事業所の取り組み内容の説明には、時間をかけ、入居者及び家族の理解を得ることを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安・悩み等を十分聞き、軽減に努めている。また、今後のサービス内容等についても相談し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の思いを大切にしながら、人生の先輩である事を忘れず、尊敬の気持ちで接しています。また、日常生活の中でいつも新たな発見をすることでさりげない支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者様の生活を共に支援していく対等な関係を築いています。また、行事等のお知らせをし、共に楽しんでいただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべての職員は利用者の知人・友人との関係を理解して今後も良好なる関係が継続できるように支援している。(行事参加や電話の支援など)	体調が良くないので出かけることは少なくなったが、これまでの友人が訪ねて来たり、なじみの美容院の人を家族が連れてきたりして関係が途絶えないように努めている。来れない知人から電話を掛けてくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴を把握して、ホーム内での気心の許せる関係を築き、共に支えあい、助け合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様より、お世話になった事のお礼等に立ち寄って頂いております。その時に、相談事があれば、気軽に連絡等して頂きたいとお伝えすることとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から話を聞いたり、生活の中で、本人とコミュニケーションを図りながら把握に努め、それをもとにフェイスシートに記入している。また、意向の把握が困難な利用者に対しては、日頃の支援の中で反応や表情を探り出している。	「私の気持ちシート」に利用者や家族から聞いたことを書いたり、日々の関わりの中で聞いたり利用者の表情などから感じ取ったりしてモニタリングや介護計画書に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より、生活歴や生活環境、趣味等をお聞きし、情報収集に努め、その人に合った生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで把握に努めており、生活の中で入居様が出来る事はやっていただくように、常時一人一人の心身の状態を把握している。それを基に月1回のカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングシートを基に家族の意見や満足度を聞き取り、定期的なカンファレンスで職員・利用者・家族の意向を取り入れ介護計画を作成し、共有している。	月1回カンファレンスを行い、利用者・家族の要望を聞いている。毎月モニタリングシートを使用し今何をすべきかを職員が考え意識を共有している。状態が悪化した場合、その都度計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化、介護計画に沿った実践・結果を記入している。また、その情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所と連携を取り支援している。また、各家族との連絡も都度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察、地域との協力も大切にしている。また、新聞販売店が協力を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科が定期的にホームに来訪し、利用者の安全と信頼を得ている。また、入居前に通院していた医療機関や専門医を希望した場合は、家族または職員が同行・受診をしたり、ホームの協力機関の利用をしている。	入所時これまでのかかりつけ医を使うか事業所の連携医を選ぶか利用者・家族の希望に合わせている。受診は家族が行けない時は職員が同行し、その結果を家族に報告している。月2回の往診がある。訪問歯科とも提携している。母体の医院や協力医療機関があり医療面は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは医療法人で運営されているため、併設内科の看護師が、常に健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡は当法人が診療所を運営していることもあり、迅速な対応が可能である。また、入院先の医療機関の主治医との連絡を密にとり、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合やターミナル期についてなどその都度、ご家族様の意向や今後の方向性・意思などを医師を交えて話し合っている。また、チームで今後について話し合い、支援を行っている。	入所時に利用者と家族に話をし重度化した場合の説明をし同意を得ている。重度化した場合その都度家族と話し合いを持ち、医師より説明がある。可能な限りグループホームで支援していく方針である。その為にも職員の研修を欠かさず全員で支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の備えとしてマニュアルを備え随時対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治区と防災協定を結んでおり、災害発生時は、協力が得られるようになって、避難訓練も定期的に速やかに避難出来るようマニュアルも用意して取り組んでいる。また、食品の備蓄も契約済みで、直ぐに支援出来る様になっている。	年2回の避難訓練を行っている。1回は消防署立ち合いで行われている。夜間想定訓練も実施している。災害時連絡網が確立されており、災害時どのように行動するかという内部研修も行われている。備蓄は業者と契約を結び災害時に瞬時に支援を受けられる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人一人を尊重し、優しい言葉掛けを心掛けており、接し方もプライドに配慮した対応をしている。書類の取り扱い方についても個人情報について学習をし、注意を払っている。	声掛け時の言葉には十分配慮をしている。接し方についても丁寧な声掛けに心掛けている。プライバシーについての内部研修を行っている。仕事上知り得た事は家族にも言わないようにしているなど個人情報は外に漏らさないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者それぞれに合わせた言葉掛けや誘導を行い本人が納得できるような説明を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な生活のリズムはあるが、体調や気分により自室で過ごしたり、日向ぼっこを楽しむなど、自分のリズムで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には理美容については定期的に訪問にて当ホーム内で行っているが、ご家族様・利用者様の希望により、行き慣れた店に行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、出来る事を一緒にいき、職員と同じ空間で、食事の話題・季節の話題など家族のように話をして過ごしている。また、利用者の好き嫌いを把握し、配慮も心掛けている。	副菜は法人の施設で作っておりご飯と汁物をホームで作っている。職員と一緒に配膳や後片付けなどできる事を一緒に行っている。食べたい物があればメニューに反映する事もある。季節に応じた行事食があり利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養、水分摂取量の目安を基に全利用者の状況を把握している。献立の好みなどを取り入れ同一法人の老人保健施設の栄養士が作成しバランスの摂れたメニューである。また、嚥下機能に応じて刻みや柔らかい食事への配慮も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら、口腔ケアの支援を行っている。義歯の手入れも合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、トイレ誘導にてトイレ内での自然な排泄が出来る様に支援している。	排泄表を基に利用者一人一人のパターンを把握して、日中はできるだけトイレに誘導している。オムツからリハビリパンツになるよう自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人のペースに合わせた軽度の運動や体操などを行っている。体を動かすのに困難な場合は、医師と話し合い、薬などで対応している。また、毎日の排泄チェックを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じていつでも入浴が可能である。他にも、汚れが気になった時や失禁など場合にに応じて入浴を実施し、体調や変化に応じて清拭に変更したりと、清拭保持を保っている。	週に2, 3回入浴している。希望があればいつでも入浴できるよう体制が整っている。入浴剤を入れて雰囲気を楽しんだり湯冷めや長湯に配慮したりしている。シャワー浴やベッドバスの利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スペースが出来ており、ゆったりと居心地の良い場所が確保されている。また、昼夜逆転を防止するため、日中は居間などに誘うように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様全員の服薬情報を周知しており、服薬の際チェック表に記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴、楽しみを把握し、個々の身体状況に応じて残存能力を活かした役割を持つ事が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分から行きたい希望を引き出すよう、日々の生活の中で接している。また、定期的な外出行事や個別において、毎日の利用者様の体調やその日の天候に応じて対応している。	体調を見て外出を考えている。近くのスーパーやドラッグストアなどに出掛けている。暖かくなったら近くへ出かけるよう体調を見ながら対応している。家族からドライブなど外出支援をしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は、記録している。また、買い物に出掛けた場合は、職員が見守り・支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状として手紙は預かっていないが要望があれば対応が可能である。自分で電話を掛けることが可能な方は、自分で電話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、目で楽しみ香りを感じる心配りを心掛けている。また、季節ごとに飾りを作り、それを貼ったり、昔のポスターを貼ったり等して楽しめる空間作りを心掛けている。	居間にソファを置いてくつろげるようにしている。昔のポスターや利用者が作った俳句を飾ったりして心地よい雰囲気づくりに努めている。風船バレーやトランプを一緒に楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子・テーブル等を配置し、過ごしやすいように設置している。また、ソファ等を置いて自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパート形式で各部屋には流し台やトイレ等があり、仏壇・椅子・洋服箱など家庭での馴染みの物を持ち込みもあり、その人の個性や趣味を活かした居心地のよい空間である。また、自分の衣服など干してあり、家庭的である。	部屋は冷暖房完備しており、飾りつけは特に華美にならず落ち着いた雰囲気である。これまで使用していた物を持ち込んでいる。仏壇や家族写真・はげましのことばなどを置き、なつかしい気持ちになれるよう居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、要所(風呂場・トイレ)には手すりが取り付けられている。		